

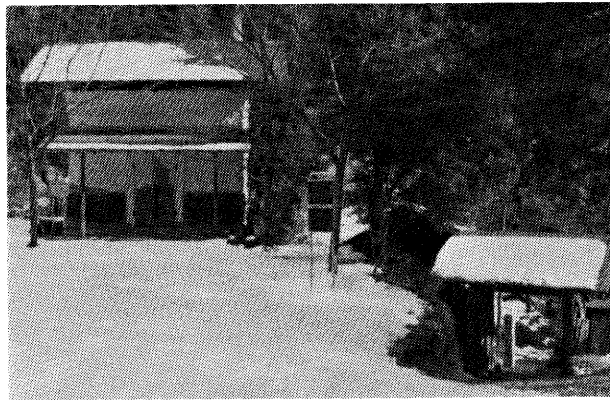
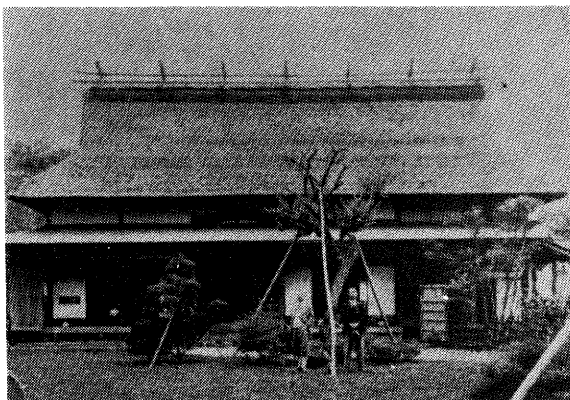
昭和59年 2月20日

郷土あれこれ

郷土館だより
第5号

五日市町立
発行 五日市町郷土館 東京都西多摩郡五日市町五日市920-1 電話 0425・96・4069 有線4607

五日市憲法草案と深沢権八



写真左 深沢家旧宅 (南沢丈久氏提供)
右 屋敷跡東京都文化財

(1)五日市憲法についての親子の会話

太郎一五日市憲法ってなんですか。

父 一昭和43年に東京経済大学の色川大吉先生たちが、五日市町深沢にある深沢家の土蔵から見つけた私擬憲法草案のことだよ。

花子一私擬憲法って何。

父 一国民が自分たちでつくった憲法さ。憲法というのはね、国の基本のきまりで、国の仕組の大枠をさめる面と、国民の権利＝人権を守る面と二つの面がある。もっともこの二つは同じものの表と裏という関係になるんだがね。

花子一いつ作ったの。

父 一書かれたのは、明治14年の前半ごろといわれている。その頃の日本は徳川幕府を倒した一部の人が権力を独占していたから、国会を開けという要求が強くなった。国会を開くには憲法が必要になる。新生日本の設計プランだね。そこで朝野の学者や有志達が憲法勉強をし

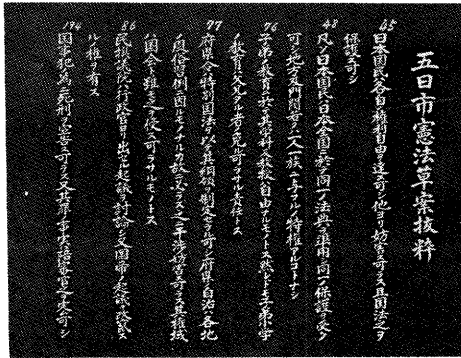
て、いろいろの私案をつくったんだ。現在わかっているだけでも40以上の憲法案があるんだよ。

太郎一国の設計図なんてすごいね。五日市憲法は誰がつくったの。

父 一発見された草案には陸陽仙台千葉卓三郎草と書いてある。まったく無名の人で色川先生方がいろいろ調べて、宮城県志波姫町の出身者で、父は旧仙台藩士ということがわかった。その当時五日市の勸能学校（公立小学校）の教員をやっていた。色川先生と一緒に発見された文書類から五日市の人たちが卓三郎を援け、共同して作ったものと判断されて、五日市憲法草案と名付けられたのさ。

花子一なぜ評判になったの。

父 一無名の民衆がつくった憲法で内容もすぐれているということなのだが一 いま明治初期の自由民権運動を見直す動きが強いのだ。それは日本が太平洋戦争に敗れ



て再出発した戦後の民主主義のルーツを探ろうということなんだろうね。現在の民主主義が健全に発展してゆくためには、改めてその原点に立帰り、それがどうして挫折したのか理由をきわめる必要があるということだね。五日市憲法はたまたま発掘のタイミングもよく色川先生のお人柄もあって共鳴のブーム現象を起したのだと思うよ。太郎—内容のどこがよいのですか。

父 —昭和54年に建てられた「五日市憲法草案の碑」が役場前にある。そこに掲げられた6条文を読んでごらん。いまの憲法そっくりだよ。いや部分的には進んでいるところもある。実は五日市憲法の研究が進み、この間も法政大学の江村栄一先生の発表されたところによると、ポルトガル憲法そっくりの条文が多いという。その他参考にしたものは嚙鳴社草案、福地源一郎案、植木枝盛案、デンマーク憲法、オーストリア憲法、永田一二論文と非常に広範囲にわたっているとのことだ。おそらく卓三郎

(2)「智恵の庫」から見た深沢権八

この智恵の庫の内容を右頁の表にみるように、第1人権・法規・政治に関するもの○印、第2経済・社会に関するもの□印、第3思想・文化に関するもの△印に分けてみた。当然ながら第1グループに属するものが多いが、まずこれからみよう。冒頭に2.「日報社の憲法意見」がある。これは憲法草案で、彼がどこから転記したのか不明であるが、内容は立憲君主制の下に三権分立をもって臨む当時としては標準型の憲法構想である。人権中心の五日市憲法に比べ、体裁上はバランスがとれた案であるが、権八は転写したのみで一切の意見を付していない。次に3.「ロベスピエール(フランス革命ジャコバン党々首)の演説」と、8.米国の独立を歌った「自由の歌」がある。「我に自由を与えよ、しからずんば死を与えよ」などという勇ましい壮士風の文句が目につき、しかも権八はしきりに朱点をうち朱丸をつけ、欄外に「日本何ゾヘンリ

たちは手に入る限りの資料を探し求め、その中の人権擁護の部分を自分たちの憲法に盛り込もうとしたのだろうね。その為国民の権利の部分は特別に充実しているが、反面内容に矛盾があったり、重複があったりで荒けずりのところは仕方がないね。江村先生も、「未完の人権憲法」と評されていた。

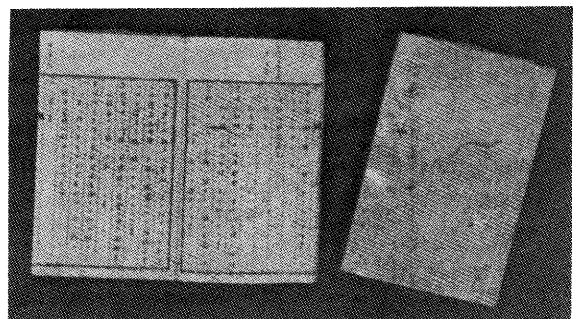
今日はねお前達に千葉さんの一番弟子である深沢権八について話そうと思うんだ。深沢家は憲法草案を所蔵していた家だし、権八は父親の名生なひまろと一緒に卓三郎のファンでパトロンだった人だ。権八さんは大変な秀才でね。15才のとき深沢村の村長さんになった一。

花子—ヤーダ私とおなじ年、中3ぢゃないの。

父 —学習活動を組織したり、民権運動に熱中した明治13年には19才。

太郎—なんだ僕と同じか。こっちは浪人中だ。

父 —生物は進化すると扶養期間が長くなると進化論に書いてなかったかな。—冗談はさておき「智恵の庫」という権八のノートが深沢家の隣の真光院というお寺にあった。これは権八が明治14~21年頃にわたって書き溜めたもので、書籍新聞雑誌の抜き書きや自分の考えを綴ったものなんだ。卓三郎は明治16年に31才で死に、権八も明治23年、29才で死んでしまった。このノートは権八が卓三郎の影響下にあって憲法作成に協力した頃から、千葉という強力な師を失って独り感じ考えた時の心の軌跡がわかるんだ。これからの話はちょっとむずかしくなるかも知れないが、我まんして聞いてくれないか。



智恵の庫(真光院文書、郷土館展示中)

—ナキカ)などと書き込んでいる。ヘンリーとは米国独立時の論客パトリック・ヘンリーのことで、権八は卓三郎の死後、追悼の詩を作り「雄弁は人推す米のヘンリー—卓論は自ら許す仏のルッソー」と、千葉をこのヘンリーに擬している。注目に価するのは10.「勅諭」で、これは

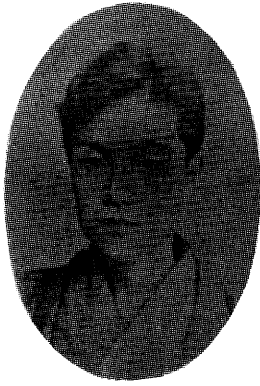
智恵の庫内容一覧 () 内後注

No.	表 題	区分	所要行数	No.	表 題	区分	所要行数
1	板垣退助無上政度ノ大略(世界政府構想)	○	2 7	27	自由党ノ主意	○	4
2	日報社憲法意見(私擬憲法案)	○	2 0 0	28	南海自由ノ歌	○	2 3
3	ロベスピエーヤの演説	○	2 1	29	立憲改進黨約束	○	1 2
4	普将モルク軍事意見	○	5	30	孝行忠節等20項目について漢籍古典よりの引用	●△	2 7 8
5	政談社民選議院意見、未完	○	2 7	31	香港大守ヘンラトツシ(日本をエジプトに比す)	●	2
6	魯国形勢(アレキサンドル2世遭難の背景)	○	6 8	32	婦人ノ権利(ネブラスカ州の法律)	○	1 0
7	露清新訂条約	○	7 6	33	刑法改正ノ要点(英国・合意ノ姦通不問)	○	1 2
8	自由の歌 米国独立	○	2 6	34	琵琶歌 西郷追慕の作 勝海舟	△	2 7
9	中外輸出平均比較概略	□	6	35	十八高僧	△	1 9
10	勅諭(国会開設を約したもの、明治14・10・12)	○	1 8	36	海舟終焉之記(明治17年)	△	4 9
11	神教的ノ元素アル国例とナキ国例	○	1 3	37	伏見義民文珠九助ノ碑文 勝海舟	○	2 1
12	魯国大帝ヘートル最後ノ遺言	○	4	38	弁論学抜摘、演説者心得	△	3 6
13	グランヴィル侯(英国外相)ノ演説	○	3 7	39	馬土撒拉(メトウサレム)		5
14	布哇国皇帝		5	40	寧祿(ニムロド)		5
15	博覧会記聞	△	6	41	合衆共和ノ原因	○	4
16	ビーコンスフキルド公伯林ノ会ヨリ歸リテ	○	3	42	租税ノ起因	□	6
17	ハクストン・モーリシュ氏ノ話(グラッドストーン氏について)	●○	2 4	43	一局議院ノ説	○	1 3
18	井原西鶴 好色一代男序	●△	3	44	死刑可廢説 津田真道	○	2 8
19	十善 十悪 三界	△	1 2	45	便宜主義ト道義感情主義トノ関係	△	3 5
20	書籍名(14冊)	○△	2 8	46	主権ノ事	○	1 8
21	紙幣下落ヨリ生スル弊害	□	9	47	政事家リコルゴス略伝	△	1 0
22	五箇条の誓文	○	1 6	48	ソクラテス	△	3
23	北垣京都府知事の激励(明治18年)	□	2 6	49	全国蚕糸ノ産額(昨20年)	●□	4
24	カントヘーゲル等の学説とこれに対応する仏説名	●△	5	50	中島淡海ノ詩4編	△	1 2
25	政弊(共和制、君主制それぞれの欠点)	○	8	51	政事大家(ソクラテスとその弟子の名)	△	1 1
26	外国債沿革	□	5		●表題のないもの、内容を汲んで仮の題を付した		

明治14年10月に出された国会開設の詔勅である。この詔勅によって自由民権運動は禁圧、転換を余儀なくされ、卓三郎らの苦心の結晶、五日市憲法も陽の目を見る機を失った。「故サラン躁急ヲ争ヒ、事変ヲ煽シ、国安ヲ害スル者アラハ、処スルニ国典ヲ以テスヘシ」などという文言を彼はどのような感慨をもって手記したか。その几帳面な字面からは何も窺えない。その後いくばくかの日時を経たと思われるが、13.「グランヴィル侯ノ演説」が記されている。これは英国外相が亡命者の人権を擁護し、虚無党断圧の国際会議への出席を拒否した演説で、成熟した英国流民主主義の格調の高さを示している。これを書き抜いた権八の見識も「自由の歌」時代より成熟したのであろうか。さらに時をおき、32.「婦人の権利」で米国の女性が結婚後も夫から独立した財産権をもち、主体的な離婚権をもつことを記しており、33「刑法の改正」では英国で姦通を刑法や警察権介入の対象から外したことを記している。権八が繊細なフェミニストであったかどうか、これだけではわからないが、少なくとも豪傑風な民権家とは無縁であることを示している。本物の人権感

覚の持主なら、男の陰で無権利状態に生きる女の姿に興味ではいられまい。千葉卓三郎は五日市の同志に対し「アジヤ気風の人が多い」という辛辣な評言を残している。アジヤ気風とは色々に解釈されるが少くとも権八は含まれていないようだ。

第2グループに目を移すと、まず9.「中外輸出平均比較概略」というのがある。これは国民1人当りの年間輸出額の書抜きで英国35.6円、米国30円、仏国28円これに対し日本75銭で、「若シソレ此上1人ニ付25銭ノ輸出物ヲ製作スルアラバ800万円余ノ金ヲ(産)出スル都合ナリ」とある。26.「外国債沿革」は日本発行の外債額とその発行理由を書いたもので、現在郷土館に展示中の千葉卓三郎の雑記帳にも公債額のメモがある。こうした記載の中に後進国日本に生きる明治人特有の憂国の心情が窺える。国の負債を我家の借金のごとく感じたものであろう。明治の民権家がコロリと国権家に変貌する秘密もここにあるようだ。智恵の庫の末尾にある49.「全国蚕糸の産額」も、明治20年に産額が大きく伸長したことを朱記している。深沢家には専用の蚕室もあり、家計に占める養蚕の



比重は大きいはずであるが、権八のノートには家業や家計に関する記述は一切見当たらない。対象はみな国家や世界である。思うに深沢家は村では卓越した家産をもち、村人から親玉と呼ばれた父名生が健在で、権八は家業やそれにまつわるダークな

人間接触から解き放されていた。いわば手を汚さなくてすむ幸な立場にあったからであろう。しかしこれは秀才権八の一つの盲点ともなった。常に広い視野と高い視点を持つ秀抜な資質の裏側に苦勞知らず、世間知らずの一面もひそんでいたようだ。というのは23.「北垣京都府知事の激励」という記事である。これは明治18年、折しも松方デフレの最中、京都府庁で大量の人員整理があり、解雇された判任官某が北垣知事の邸にきて知事に再就職の紹介を乞うたところ知事はこれを拒否し、独立と廉恥を重んずべきことを説いたという記事である。「…寧ろ餓死スルモ依頼心ヲ起シ人ニ頼テ事ヲ成サント思勿レ、此一言ヲ記憶セバ余ガ紹介ヲ待タズシテ能ク足下ノ立身ヲ期スルヲ得ベシ」と知事の言葉を書きしるしている。権八がこの知事の言に感銘をうけて記したことは他の記事から類推して明らかである。知事はこの文の中で150名の解雇者にいちいち斡旋は出来ないといっている。表題は激励であるが内容は突放しである。思うに権八は“独立”と“廉恥”に惚込んだと想像される。あるいは福沢諭吉の“独立自主”を連想したのかも知れない。世は松方デフレの真只中である。恥をしのび、身を屈してすがる弱者に独立と廉恥を説くのは、強者のむごい論理であり、少くとも賞讃の対象にはなりにくい。深沢家は有力な山持ちであるが、一般にデフレ期にははすがってくる村人を山へ送り、安い日傭で山の手当をしながら、じっと時をかせいでいれば家産は自ら肥えるのである。権八の家計事情はとにかく、もともとヒューマンな彼のこと故、経済上の苦勞が身についていれば、この記事に対する反応も自ら異なっただろう。誇り高いエリートが、うっかり示した冷たさである。

この辺で第3のグループに目を転じよう。ここでまず目につくのは漢籍への造詣である。30.は孝行、忠節、和順、友愛、信義、勤学、立志、誠実、礼讓、仁慈他10の

徳目を立て、孝経、詩経、書経、易経、礼記、論語、大学、中備、孟子のいわゆる四書五経（ここでは春秋の代りに孝経）からその徳目に合致する名句を抜粋している。これが彼のオリジナルか、引き写しか筆者の学識では確められないが、四書五経は漢学の基本原典であり、幼少年期からこの素読を始めるのがエリートの要件であった。村の若者ならせいぜい往来もの止りである。権八は村人とは別世界に住んでいた。彼は量質ともに優れた漢詩を残している。漢学の素養が基礎となって西洋伝来の思弁的な学説も理解が早かったと思われる。45.「ベンサムノ便宜主義トスペンサーノ道德感情主義ノ関係」は、彼の西洋思想への理解が上っ面なものでないことを示している。権八は20「書籍名」の中で、ベンサムの立法論綱、ミルの利学、スペンサーの社会平権論を挙げているがどうやら読破しているようである。権八の記載は本の丸写しでなく、彼の理解に基づき書かれた文章で、その解釈もきわめて正確である。なお48.「ソクラテス」は3行記事であるが、ソクラテスの主張を簡潔に要約している。たとえ引写しであっても理解を以て写していることがわかる。この外24.「カント、ヘーゲル等西欧学説と、これに対応する仏教上の学説」、51.「ソクラテスとその弟子名」などには十二分の関心を抱きながら、立入るための書籍、良師にめぐまれず、戸口にたたずむ権八の姿をみるのである。第3グループを通覧すると、彼の本質的な性格がこうした思弁の世界に向いていたことがよくわかる。

権八は感受性の最も鋭敏な10代に自由民権運動の波に遭遇し、そこで出逢った千葉卓三郎に魅せられ、導かれてその才能を開花させた。しかし、さすらい人卓三郎と違い温室育ちの権八は反体制を貫けるタイプではない。理解力の広い進歩的教養人というのが夭逝した彼の本質であるように思われる。なお五日市憲法草案の筆跡は「智恵の庫」と一致する。五日市憲法起草にあたって千葉を援けた五日市人は多かったというが、内側から実質的に千葉を支えるに足る学識をもった者は少なかったようである。残念ながら権八以外の資料に未だ接しない。

(文責・石井)

写真上 深沢権八
下 同人墓

